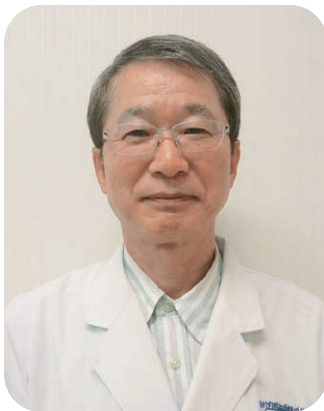




医療
ホット
ライン

内科

一時的に片目が見えなくなる 「一過性黒内障」は脳卒中の前兆



西村内科脳神経外科病院

園田 隆次 先生

このような人は
要注意です！

- 糖尿病 ●高血圧
- 高脂血症
- 喫煙している人など

おもに脳卒中中のリスクが高いといわれる、上記のような人は注意が必要です

「あれ、何だったんだろう？」
と放置せずに、早めの受診を

数分で治ったから
といっても放置する
のは危険です。また
見えないうちの状態
が長く時は眼科的
治療が必要な場合
もあります



激しい頭痛や手足のしびれなど、急に症状が出るケースの多い脳卒中中。その前兆として、片目が一時的に見えなくなることもあるそうです。西村内科脳神経外科病院の園田先生に、詳しくお話を伺いました。

——一過性黒内障とは？

園田 一時的に片目が見えなくなり、その後しばらくすると、また見えるようになるのが特徴です。患者さんからはよく、「真っ暗になった」と聞きます。原因は、目の網膜の動脈を一時的に塞いでしまうことで起る症状

です。人によって異なります。人によっては、視力は回復し、何ごともなかったように症状は治まります。

——もしそのような症状が出たら、どうすればいいのでしょうか？

園田 一過性黒内障は「脳卒中の前兆」とも言わ

れています。ですから、まずはMRI・MRA、頸動脈エコーで、頸動脈や脳血管の状態などを精密に検査する必要があります。さらに、高血圧や糖尿病、脂質異常などの基礎疾患の有無も調べます。中には右の写真のよ

うに、一過性黒内障の症状で当院を受診され、検査をした際に頸動脈の狭窄が見つかったケースも。さらに、ほかの箇所血管でも、細くなっている部分が見られました。

——脳卒中になっていた
かも…と思うと怖いですがね。血管の狭窄が見つかった場合の治療は？

園田 軽度の狭窄であれば薬物療法や糖尿病・高血圧等の治療、また重度の場合は血管のつまりを改善する手術など、患者さんの状態によって治療の方法はさまざまです。一時的に見えなくなつた、という症状があった人は早めに医療機関を受診し、検査して下さい。また、症状がない人も当院では脳ドックを行つておりますので、ご相談ください。



【図1】頸動脈に狭窄がみられる患者さんのMRA画像